YOKA HOSPITAL NEWS

八鹿病院ニュース

2012年
4月

公立八鹿病院基本理念

『私たちは、地域中核病院として、医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くします』

● yoka hospital「医療」

腹腔鏡手術

「身体にやさしい
手術を目指して」

傷跡が小さく回復が早い腹腔鏡手術。当院でも取り組んでいます。

- ＴＥＡＭ八鹿病院「公立村岡病院」
- 看護部だより「摂食嚥下チーム」
- かかりつけ医をもちましょう
- 医師異動のお知らせ
- 福祉センターホームページをリニューアル！
- 休日肺がん検診終了のお知らせ

ふくくうきょう
腹腔鏡手術

身体にやさしい手術を目指して

当院外科では、腹腔鏡下胆のう摘出術は約20年前から始めて、今では胆石の手術として標準術式となっています。5～6年前からは胃がんや大腸がんに対しても腹腔鏡手術を取り入れています。

今回は、胃や腸に対する腹腔鏡手術についてご紹介します。

外科　木島（きじま）　寿久（としひさ）

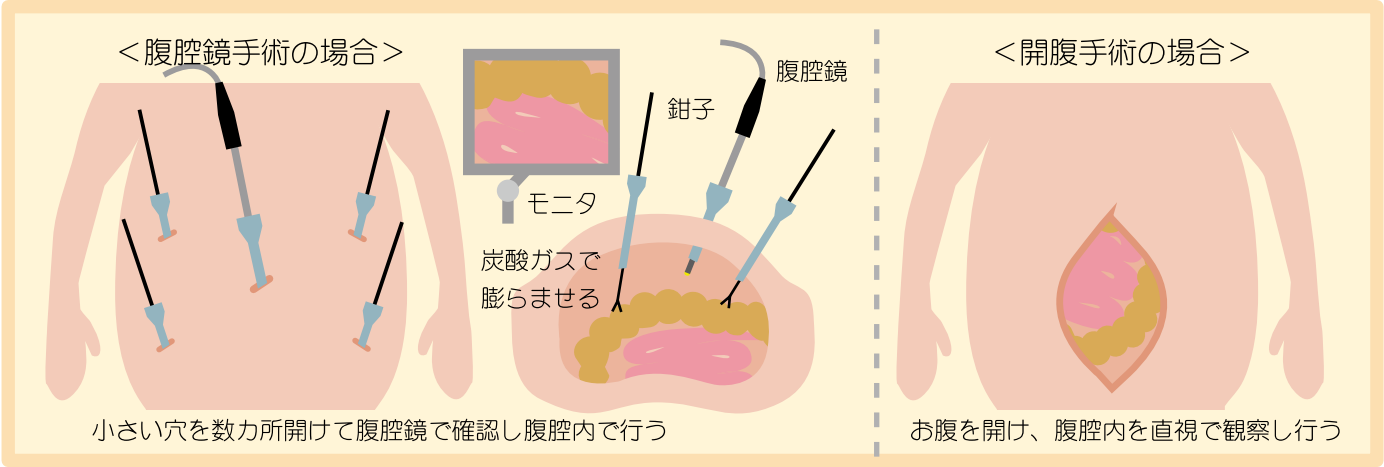
腹腔鏡手術とは？

お腹の中を「腹腔」と呼び、腹腔内を観察するカメラを「腹腔鏡」といいます。腹腔鏡手術は、お腹に小さい穴を数ヶ所開けて炭酸ガスで膨らませます。そこから腹腔鏡を入れて腹腔内をモニターに映して観察しながら、鉗子という道具を使って行います。

開腹手術と違う点は？

腹腔鏡手術と開腹手術は、基本的に治療内容は同じで、がんの場合は、がんとリンパ節を一緒に切除し、良性疾患の場合は病変部を切除します。開腹手術は傷を大きく開けて直接お腹の中を見ながら手術を行いますが、腹腔鏡手術は小さい穴から腹腔鏡と鉗子を入れ、モニターで見ながら手術を行います。このため、腹腔鏡手術は開腹手術に比べ、傷が小さい、術後の痛みが少ない、離床や回復が早い、出血や癒着が少ないなど、身体への負担が少ない手術と考えられています。

一方で、手技が難しいため手術



時間が長くなる傾向があります。また、過去に開腹手術を受けている人や、高度の進行がんなどの場合は適応とならないこともあります。

どんな病気の人が受けることができるの？

消化管に対する腹腔鏡手術は、内視鏡治療のできない早期胃がん、粘膜下腫瘍、穿孔性胃十二指腸潰瘍、内視鏡的に切除が困難な大腸ポリープ、大腸がんの他、虫垂炎、癒着性腸閉塞、食道裂孔ヘルニアなど、様々な病気に行われています。

しかし、開腹手術と異なる高度な手術手技や経験が必要で、肥満や癒着のある患者さんや、病変の場所や種類によってはさらに難易度が高くなります。

腹腔鏡手術を希望される場合は、その疾患の適応や、開腹手術と比較した長所や短所について十分な説明を受けたうえで、治療法を決めることが大切です。

勢馬医師（左）・木島医師（中央）・三宅医師（右）と腹腔鏡手術スタッフ

腹腔鏡手術の利点と問題点

＜利点＞

- 傷が小さく美容的に優れる
- 出血量が少ない
- 手術の部位に接近し拡大でき詳細な観察ができる
- 術後の痛みが少なく早期離床が可能
- 術後の腸管運動の再開が早く早期の食事開始が可能
- 入院期間が短く早期の社会復帰が可能
- 術後の腸管癒着・腸閉塞が少ない

＜問題点＞

- 患者の体型・癒着・病変部位によって術野の展開・確保に制限がある
- 手術時間が長くなる
- 術者・助手の技術に熟練が必要
- 細かい作業や迅速な処置に限界がある
- 悪性腫瘍では病期によって適応が限られる
- 腹腔鏡下手術に特有の合併症がある

当院と一緒に地域の方々を支える仲間を紹介！

TEAM 八鹿病院

公立村岡病院

香美町村岡の山間部に位置する公立村岡病院。養父市をも上回る高齢化や冬期の積雪など様々な問題をもちながら地域の医療を支えています。そんな地域だからこそ必要な「医療」を石田院長にお聞きしました。

地域での役割「在宅支援」

村岡病院の入院患者さんの平均年齢は80歳前後です。また、入院患者さんで、介護認定を受けているか新規申請する患者さんの割合は8割以上です。ですから、患者さんのご家族や近所の人が、病院にお見舞いに来られた時に、村岡病院を老人ホームと勘違いして、よく言われる言葉があります。

「長いこと置いてやってください。お願いします。」

私はこう答えます。

「患者さんは物ではありませんので、置いておくことは出来ません。高齢の患者さんは完治しにくいですし、障害が残ることもあります。しかし、状態が安定したら、患者さんの希望に沿って住み慣れ

石田院長の訪問診察に密着！

雪景色の中、「寒い時は長袖も着るけどね～」と、半袖の白衣で颯爽と患者さん宅へ歩く石田院長。とにかくパワフルな院長に取材スタッフも息を切らしながら追いかけました。

による血圧測定・検温。

壁のような雪道へ進む石田院長と看護師さん。

車の運転も院長が行われます。雪道も慣れたご様子でした。

たご自宅での生活をしていただくよう早めに相談します。安心して下さい。当院の医師が定期的に訪問診療にうかがいますし、訪問看護師さんに来てもらうこともできます。」

高齢化率が約40％村岡病院の診療圏では、前記のように在宅医療が必須です。八鹿病院には近藤先生や訪問看護の方々が切り開かれた在宅医療があり、村岡病院が在宅医療を始めるのによい見本となりました。在宅ケアは、自宅で生き、自宅で死にたいという患者さんの希望を支える、重要な仕事だと感じています。医師数が3人に減り、困難はありますが、むらおか訪問看護ステーションと連携しながら、これからも在宅患者さんを支えて行きたいと思います。

最期をよりよく迎えるために

高齢者医療はゆっくりとしたターミナルケアです。特に在宅ターミナルケアは、住み慣れた自宅で最期を迎えたいという、患者さんの希望をかなえる手助けをする、最もやりがいのある仕事です。最近の私の仕事は「ターミナル・ケア・マネジャー」であると感じています。病院であろうと、自宅であろうと誰にも必ず最期の時がきます。その時を、よりよく迎えるために、意思表示ができなくなった時の治療法を本人の希望で決めておく必要があります。私は講演会に出向くと、希望（リビングウィル）を記入する「治療の事前指示書」を配って、その意味や記入方法を説明しています。

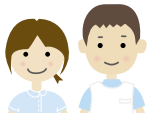
村岡病院の地域での役割は、在宅支援であると考えています。今後も、在宅での看取りを進めていきたいと思います。

訪問診察の日を心待ちにされているかのような笑顔を見せてくださる患者さん。「やりがいのある仕事です」と院長も嬉しそう。元気に訪問する院長の原動力になっているようです。

問診・診察を行います。ご自宅が診察室に早変わり。

まずは看護師さん

詳しいお問い合わせは
公立村岡病院
〒667-0022 兵庫県美方郡
香美町村岡区村岡 3036 番地 1
TEL. 0796-94-0111　FAX. 0796-98-1341



食事の楽しみを提供しつづけたいそんな思いを持ったチームです

摂食嚥下チーム

私たちは、正しい評価のもと、患者さんに日々の食事を少しでも楽しんでいただけるよう、さまざまな職種と一緒にサポートしています。

看護師　状態を評価し患者さんにあったケアを調整

私たちは、普段は当たり前のように飲み物を飲んだり、食べ物を食べたりしています（嚥下）。しかし、病や加齢によって食べ物が気管に入ってむせたり（誤嚥）、喉に残ってしまうなど、今まで通りに食べることができなくなることがあります。これらのことを「嚥下障害」といいます。

食事をすることは単なるエネルギー摂取だけではありません。おいしそうな料理を見て感激したり、食感・味を楽しむ、また、家族や仲間との会話や団らんが生まれるなど、生きていく上で大きな楽しみの1つといえます。嚥下障害になると、「食べられない」ということで精神的にもダメージを受けますし、低栄養や脱水、また、肺炎のような身体への悪影響をおよぼす病気にかかる場合もあります。

日々患者さんと接する中で、看護の視点から患者さんの状態を把握し、食事形態やリハビリ、口腔ケアなど各担当者と連携し調整を行っています。

▲月に１回各担当者が集まり、ケースの検討や知識の共有を行っています

管理栄養士

ソフト食で食べやすく食欲をそそる食事を

▲嚥下障害軽度のソフト食

▲嚥下障害重度のソフト食

当院では、咀嚼（そしゃく）力の弱い方や嚥下の困難な方に昨年 10 月より、「きざみ食」「こきざみ食」に替わり「ソフト食」を提供しています。

「きざみ食」「こきざみ食」は、原形がわからないほど細かくきざまれた食事です。食べやすさを考えてのことですが、見た目も悪く食欲もそそらないとの声もあがっていました。また、実はムセやすく誤嚥を起こす危険性もあります。

現在、提供している「ソフト食」は、舌で押しつぶせるほど軟らかいけれど、しっかり食べ物の形がある食事です。卵や山芋など、つなぎを使い本来の形のように形成したり、圧力鍋でやわらかく炊き飲み込みやすいよう調理しています。

ひと手間はかかりますが、「おいしかった」と患者さんに満足を感じていただけることを目標に取り組んでいます。

※咀嚼力（そしゃくりょく）とは…食べ物を歯で噛み砕く力のこと

言語聴覚士

リハビリで飲み込む力の向上を目標に！

一般的に摂食・嚥下障害は脳血管疾患などさまざまな病気に不随して起こるもの、また、加齢による筋力の低下により、どなたでも摂食・嚥下障害になる可能性もあります。例えば、年をとると筋力が低下して咳払いが弱くなります。咳はのどに溜まっているものをはき出すのに重要で、咳払いが弱いと誤嚥しやすくなります。こういった筋力の低下などを防ぐため、嚥下訓練（リハビリ）を行います。

冷たい刺激によって嚥下反射（ゴックンと飲み込むこと）を促しています

歯科衛生士

口腔ケアで誤嚥性肺炎を防ぐ

食道に入るはずの食べ物、飲み物、唾が気管や肺に入ってしまい起こる肺炎を「誤嚥性肺炎」といいます。その多くは、口腔内環境が悪い状態で誤嚥することで細菌が肺に入り込むこと、また、唾液中の口腔内細菌が増えることで、自分の唾液が原因となることもありえます。

口の中をしっかり清掃し、いつもきれいな状態を保つことで誤嚥性肺炎のリスクの低下に努めています。

トピックス

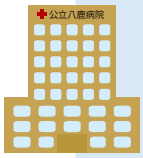
かかりつけ医を持ちましょう

～地域の救急医療を守るために各医療機関の役割をご理解ください～

地域の医療機関には、それぞれの機能や役割があります。限られた医療資源を効率的に活用し、よりよい医療サービスを皆様にお届けできるよう各医療機関の役割をご理解いただきたいと思います。

診療所・クリニック【一次救急病院】

普段の健康管理や日常的な診療（風邪や慢性疾患への対応など）を行う



一般病院（八鹿病院）【二次救急病院】

診療所・クリニックでは対応困難な入院や緊急手術を要する診察や特殊な検査を行う

まずは「かかりつけ医」への受診をお願いします

八鹿病院を受診される方の中には、診療所等で対応可能な方、緊急性が認められない方も多く受診されています。

軽症患者さんが集中し、救急車搬送患者さんや開業医さんからの急病患者さんの受入、また入院患者さんの容態急変への対応など、重症患者さんの治療に支障をきたさないためにも、まずは「かかりつけ医」への受診をお願いします。

医師異動のお知らせ

【新任医師】 平成 24 年 4 月 1 日～　～よろしくお願いします～

【内　科】
かわにし　こうたろう
川西 康太郎

【内　科】
あおき　ともこ
青木 智子

【内　科】
たかつ　なみこ
高津 南美子

【放射線科】
みよし　ふみのり
三好 史倫

【産婦人科】
おざき　かずひこ
尾崎 和彦

【研修医】
わしお　てるあき
鷲尾 輝明

【研修医】
やまもと　ゆうや
山本 裕也

【退任医師】 平成 24 年 3 月 31 日付
～お世話になりありがとうございました～

【内　科】山口　耕介　【内　科】福井　美保
【小児科】石井　良樹　【放射線科】山本　修一
【泌尿器科】山根　明文　【歯　科】米田　優
【歯　科】越村　公義

公立八鹿病院福祉センターホームページリニューアル!

平成 24 年 4 月より福祉センターのホームページがリニューアルされました。今後とも、タイムリーな情報発信に努めます。

新アドレス

http://fukushi.hosp.yoka.hyogo.jp/

休日肺がん検診終了のお知らせ

平成 21 年 9 月より、毎月第 4 土曜日・日曜日に行ってまいりました肺がん検診の休日精密検査ですが、**平成 24 年 3 月末をもちまして終了**いたしました。何卒、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

発行
公立八鹿病院 総務課
〒667-8555 兵庫県養父市八鹿町八鹿 1878 番地 1 TEL. 079- 662- 5555（代） http://www.hosp.yoka.hyogo.jp